

## 公開特許公報

昭和50年9月16日

卷子四

(4,000円)

特許庁長官：齊藤英雄殿

1. 発明の名称 カクドカヘンハ  
角度可変歯ブラシ

2. 発明者 特許出願人と同じ

3. 特許出願人  
住 所 奈良市学園胡日町10番1号  
電話 (0742)-44-1317  
氏 名 タニグチツトム  
谷 口 助4. 添附 紙の目録  
(1) 明細書 1通  
(2) 図面 1通  
(3) 願書副本 1通方式  
審査  
50

50 112311



## 明細書

1. 発明の名称 角度可変歯ブラシ

## 2. 特許請求の範囲

歯ブラシのブラシの植毛板とその柄を $120^{\circ}$ ないし $170^{\circ}$ ,  
 $180^{\circ}$ ,及び $190^{\circ}$ ないし $240^{\circ}$ の3段階に角度を変え且つ固定す  
ることができる、それより口腔内の歯の磨面、左右側、頬舌面と夫  
々の面に応じて磨くことのできる歯ブラシ。

## 3. 発明の詳細な説明

従来より世界各国において各種の歯ブラシが市販されており、  
夫々の用途、好みにより形の異なる歯ブラシが用いられている。近年において歯に対する衛生思想が高まりその対象となる歯の位置、  
部位により歯を磨くべき方法が正確を要する様になり口腔内のすべての歯を1本の限定された歯ブラシによって隅々迄磨くのが困難で  
あり2~3種類の歯ブラシを変えることにより略完全に磨き得ること  
が判明した。

歯ブラシはその性質上、各人が兼用することができず夫々個有のものが必要となり、それが2~3種類になると1家庭で必要なブラシの数は相当多數になる。

⑪特開昭 52-37150

⑬公開日 昭52.(1977) 3.22

⑭特願昭 50-112311

⑮出願日 昭50.(1975) 9.16

審査請求 未請求 (全3頁)

厅内整理番号

7011 46

⑯日本分類

125 B11/2

⑰Int.CI<sup>2</sup>

A46B 5/00

实际上、その保管又は携行状況から言っても満足すべき数を保有  
することは困難である。

本発明は口腔内の歯のすべての位置、各部位に対して1本の歯ブ  
ラシで隅々迄磨くことが出来るようブラシの植毛板と柄の角度を三  
段階に変えるよう考案した。

従来より歯の磨き方には定説があり歯の隙間を磨く必要上、歯の  
生えている方向に沿ってブラシを振動させ、且つ歯のすべての面に  
沿って動かす必要がある。

従来の歯ブラシの図を第1図、第2図に示したがこれによると一  
般には左の舌側と右の頬側が磨きにくいが左の頬側と右の舌側は磨  
きやすい。(人によってはそのくせより全く逆の場合もある。) 第3  
図に示したもののは一般には第1図、第2図のものと逆の側に便利と  
なっている。

本発明は第4図、第5図の如く柄とブラシの植毛板の角度を変え  
且つその位置で固定することにより、第6図に示す如く右ききの人  
にとっては右手で持つとらくになり、第7図では左手で持つ様に考  
案されている。

第6図、第7図に於いては(10)で示すものは歯列であり(11)は  
(2)

本発明にかかるブラシである。

### 実施例 1

第4図の如くブラシ(1)の植毛板(2)と柄(3)との間に関節(4)を設け夫々 $150^{\circ}$ ,  $180^{\circ}$ 及び $210^{\circ}$ とに固定出来るようにしその上にプラスチックの如き弾力性、若しくは可塑性のある材料で関節が汚れないように匂い水、歯みがき粉等が関節部に入らないようにする。

これを用いて第6図、第7図の如く刷掃すれば歯の隅々迄容易に磨くことが出来る。

### 実施例 2

第5図Aの如く柄(5)の一端を軸に対して $145^{\circ}$ の角度に曲げその両端にブラシの取付部(6), (7)を作る。ブラシ部(8)は(6), (7)の取付部に嵌合するように2段で細くなり細い部分に廻り止めの突起(9)を設けてある。

第5図B, Cに於て取付部は2重の管となり外管の内壁はブラシ部の1段目の細くなつた部分と嵌合する。

取付部の内管は切込みか奥までついておりその中にブラシ部の廻り止めの突起が入るよう、又第5図Dで見られるようにこの切り込み(j)

第4図は本発明にかかるもので図中(1)はブラシ部、(2)はブラシの植毛板、(3)は柄、(4)は可変の握手である。第5図は又本発明にかかるものでAは全体の構成を示し(5)は柄を(6), (7)はブラシの取付部を示し(8)はブラシ部を(9)は廻り止めの突起を示す。Bはブラシ部、Cは取付部、Dは取付部を孔の方から見た図を示す。

第6図A, Bは右ききの場合の応用例で第7図A, Bは左ききの場合を示す。図中(10)は歯列を(11)は本発明の歯ブラシの適用を示す。

以上の如く本発明により各人は1本の歯ブラシにより完全に隅から隅まで歯を磨くことが出来、歯の衛生より見た今日の要求に貢献すること甚だ大きいものがある。

は $180^{\circ}$ の位置にもつけてありブラシが全く逆に向くことが出来る様にしてある。

従って角度のついた端の方にブラシをつけた場合その角は $145^{\circ}$ になるか $215^{\circ}$ になるかいづれかになる。他端につければ $180^{\circ}$ になるのは目うまでもない。これによって歯の位置、部位によりそのブラシの付け方を変えてみがくことが出来る。

文書訂正

実施例1, 2に於ける柄と保持板との角度は夫々 $150^{\circ}$ ,  $180^{\circ}$ ,  $210^{\circ}$ 及び $145^{\circ}$ ,  $180^{\circ}$ ,  $215^{\circ}$ としたがこの角度は $120^{\circ}$ より小さくなるとみがくのに甚だ不都合になり又 $170^{\circ}$ をこえて $180^{\circ}$ 迄であれば $180^{\circ}$ と余り異ならないので意味はない。又 $180^{\circ}$ 以上 $190^{\circ}$ 未満の角度であれば $180^{\circ}$ と異なることはなく又 $240^{\circ}$ をこえる角度であれば操作に不都合となる。

従って本発明に適合した範囲としては $120^{\circ} \sim 170^{\circ}$ ,  $180^{\circ}$ ,  $190^{\circ} \sim 240^{\circ}$ となる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図、第2図は従来より市販されている歯ブラシの図である。

第3図は第1図、第2図で磨きにくい場合を便利になる機工法されたものである。

(4)

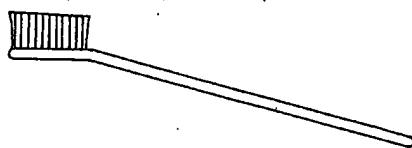
第1図



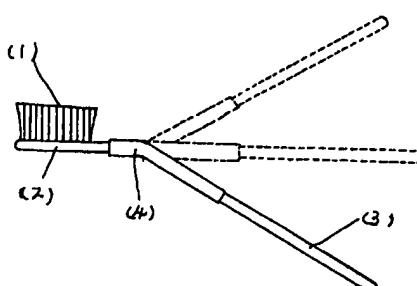
第2図



第3図

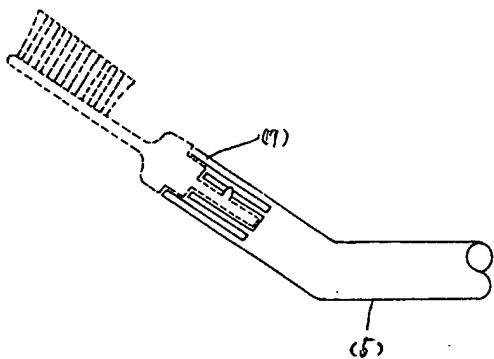


第4図

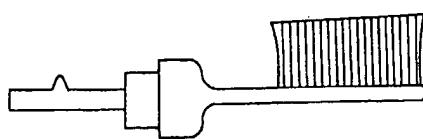


特許出願人 谷 口 勉

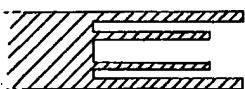
第5圖 A



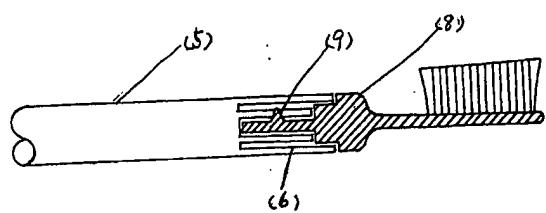
第5圖 B



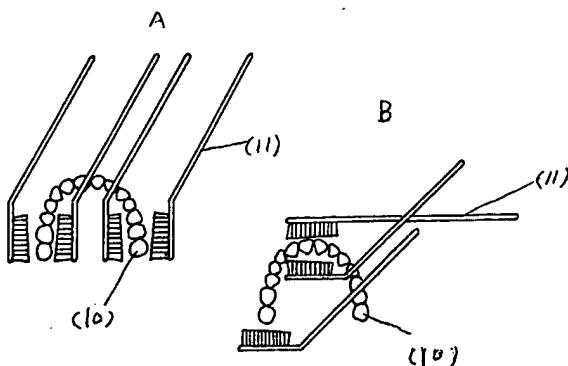
第5圖 C



第5圖 D



第6圖



第7圖

